

毎年更新！ 総勢263名が参加

見守りネットワーク事業

「住民支え合いマップづくり、個別避難計画作成」

11月14日新井地区、15日長岡・山子田地区、16日広馬場地区が役場庁舎内会議室において、自治会長はじめ各区役員、民生児童委員、ささえあい協議体、榛東駐在所、消防団、防災ボランティア、学校関係者、JA榛東職員が参加し、**災害時や日常の非常時に支援を必要とする方・世帯(避難行動要支援者)**を地域全体で見守るネットワークを構築するため「住民支え合いマップづくりと個別避難計画作成」を開催しました。



今年度は、昨年実施した個別避難計画に基づく、避難訓練の検証を参考に、**施設への避難が必要な方は高齢者施設(社会福祉法人榛永会、医療法人井野整形外科・リハビリ・内科)への直接避難が可能**となり、より実践的な個別避難計画が更新されました。



- ①マップづくりは、行政区地図に要支援者宅(一人暮らし、高齢者世帯・障がい児者等)、支援者宅と危険箇所や除雪優先歩道を色分けし確認。
- ②避難行動要支援者名簿は、本人や家族に同意を得た方を対象に迅速な避難行動ができるよう身体の状態等に合わせて細分化し記載(身体状態区分：S・A・B・C)。
- ③個別避難計画の作成は、避難行動要支援者名簿の方を対象に災害時に誰が支援するか、どこに避難するかなど、あらかじめ記載した計画。

マップづくりは、世代を超えた顔の見える地域の関係づくりになり、情報共有することで実効性のある避難計画や日頃の見守り活動、災害から高齢者等、自ら避難が困難な方の命を地域の支援者と共に守り、安心して暮らせる地域づくり「近助」につながると考えられます。

